

団体名 明日を紡ぐ大地の会 (山口市)

| | | |
|--------|---------------------------|--|
| 代表者名 | 福島 光子 | 団体の目的 |
| 構成員数 | 8人 | <ul style="list-style-type: none"> ふるさとゆかりの文学・芸術作品に新しい光を当て、その世界に芸術性豊かな表現をもたらし、広く市民・県民に提供する 草の根の文化活動を通じて、県民のふるさとへの愛と誇りを高め、平和で心豊かな山口県を築く |
| 設立 | 2010年4月 | |
| 問い合わせ先 | ☎083-921-2476 (事務局 福島) | |

事業名 市民文化共同発表会10周年記念事業 ～第9回女流芸術家発表交流会、2022年市民みんなの文化祭～

事業の目的

- 県内各地で地域に根差した芸術活動が続けている団体がジャンルを超えて自主的な発表を行う
- これまでの成果を踏み固め、質量両面にわたるふるさとの自主的な文化運動の発展を目指す

事業の内容

- 第9回女流芸術家発表交流会

| | | | | | |
|-----|------------------------------------|------|--------------|-----|------|
| 開催日 | 5月29日(日)13:30～ | 開催場所 | ニューメディアプラザ山口 | 参加者 | 220人 |
| 内容 | 管弦楽やサクソフォンのカルテット等、様々なジャンルの芸術家による発表 | | | | |

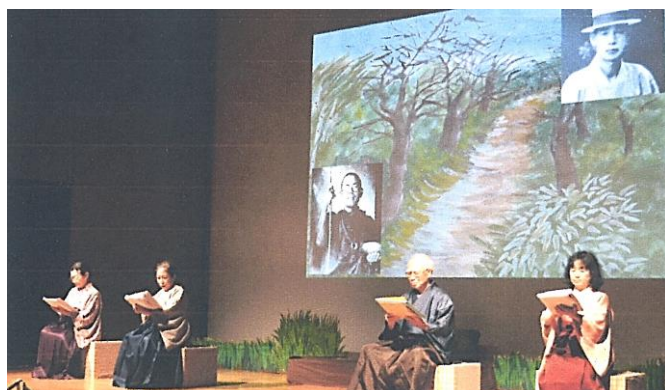
- 「みんなで燃やした文化の火～市民文化共同発表会十年のあゆみ」を出版 A4版183P/300部
- 2022年市民みんなの文化祭

| | | | | | |
|-----|--|------|--------------|-----|------|
| 開催日 | 11月27日(日)13:30～ | 開催場所 | ニューメディアプラザ山口 | 参加者 | 180人 |
| 内容 | ハーモニカやマンドリン、バイオリンの演奏や日本舞踊、朗読劇など多種多様なジャンルの芸術家による発表会 | | | | |

事業の成果

- 市民が市民の手で創造し発表する「市民文化共同発表会」の運動を10年間続けてきた成果が大きな稔りとなって実を結んだ。出演団体は芸術性の高いステージを繰り広げ、市民手づくりのエネルギッシュな出し物が満席のお客様を感動させた
- 今後もインターネットやSNSを活用した告知や情報発信の方法を検討しつつ、「平和で心豊かなふるさとを！」を合言葉に素晴らしい舞台を精力的に創造していきたい

活動の写真



当会の朗読劇「いのちの道しるべ～種田山頭火の世界」上演



様々なジャンルの芸術家が発表

団体名 市民劇団キラリ☆シ (下松市)

| | | |
|--------|-----------|---|
| 代表者名 | 梅本 真里恵 | 団体の目的 ・ 演劇等の創作やイベント等の実施を通して、参加者に表現活動の場を提供し、地域の文化を活性化する |
| 構成員数 | 12人 | |
| 設立 | 2017年 | |
| 問い合わせ先 | 山口きらめき財団へ | |

事業名 朗読を通して言葉の魅力や想いを伝え地域活性化

事業の目的

○ 様々な内容の物語を朗読や群読をすることで、楽しさや面白さを伝え、作品の魅力を伝える

事業の内容

○ 地域イベントへ参加して朗読劇を上演

| | 内容 | 開催日 | 場所 |
|---|-------------------------------------|--------------------------|----------------------|
| ① | 芸術村フェスタで楽しく歌う朗読コンサートを実施 | 6月18日(日) | 秋吉台国際芸術村 |
| ② | くめっこ朗読会で子ども食堂でのお楽しみ会として、紙芝居と大型絵本を朗読 | 8月27日(土) | 久米市民センター |
| ③ | 家族みんなのフェスタで昔話の読み聞かせと群読を披露 | ①10月23日(日) ②10月30日(日) | ①維新大晃アリーナ ②厚狭複合施設 |
| ④ | 学校において、30分間低学年を対象にしたおはなし会を開催 | 1月27日(金)・31日(火)、2月3日(水) | 徳山総合支援学校 |

事業の成果

- 朗読を聞かれる方の年齢に合わせて演目を変えたり、発表場所や広さ、参加人数等に合わせた工夫を行った。支援学校では、支援の必要な子ども達の様子を予め聞き取りし、なじめるような声の大きさ、心をつかむ演目の選び方を工夫した。大変ではあったが子どもたちのうれしそうな様子を見ると、演じることの幸せを感じ、読むことでの繋がりを感じた
- 教室内パフォーマンス朗読会を2~3か月ごとに行うこととし、人前で朗読を行う機会を作る等、技術の更新も行っている

活動の写真



「家族みんなのフェスタ」では紙芝居や群読を披露

団体名 山口ジャズメッセ実行委員会 (岩国市)

| | | |
|--------|-------------------------|---|
| 代表者名 | 坂田 王将 | 団体の目的 <ul style="list-style-type: none"> 山口県のジャズ音楽の発展に寄与する 県内のジャズミュージシャンに光を当て、新たな音楽イベントを構築し、地域を盛り上げる |
| 構成員数 | 9人 | |
| 設立 | 2022年1月 | |
| 問い合わせ先 | ☎090-3637-6562 (事務局) | |

事業名 山口ジャズメッセ

事業の目的

○ 県内のジャズ愛好家や音楽家によるコンサートを開催し、地域を盛り上げ、ジャズの魅力を発信する

事業の内容

○ 県内を巡回する形で「YAMAGUCHI Jazz MESSE (山口ジャズメッセ)」を開催。県内のジャズバンドの他、ゲストとしてプロのジャズ演奏家が出演

| | 開催日 | 場所 | 参加者 |
|---|-----------|---------------------|--------------|
| ① | 4月17日(日) | フジグラン岩国(岩国市麻里布町) | 延べ 1,300人 |
| ② | 6月25日(土) | 天神ピア(防府市天神町) | |
| ③ | 8月13日(土) | 周南市立徳山駅図書館(周南市御幸通り) | |
| ④ | 10月23日(日) | JR新山口駅北口(山口市小郡) | |
| ⑤ | 11月27日(日) | sweet us(長門市仙崎町) | |
| ⑥ | 12月11日(日) | シーモール下関(下関市竹崎町) | |
| ⑦ | 3月19日(日) | 秋吉台国際芸術村(美祢市秋芳町秋吉) | |

事業の成果

- 県内の多くの方にジャズの魅力を味わっていただけ、山口県の音楽文化向上に寄与することができた
- 県内で活動しているジャズミュージシャンが集まることによって、交流の場が設けられ音楽の向上や親睦を深めることができた

活動現場レポート

日時：3月19日(日) 11:00～/秋吉台国際芸術村
YAMAGUCHI Jazz MESSE (山口ジャズメッセ)

- ◆ この日は、県内7会場でジャズの演奏を行う公演活動の最終日。コロナ禍以降、思うように活動ができない県内のジャズミュージシャンへ活躍できる場を作りたいとの会の思いを汲んで、会場には県内各地からたくさんの愛好家が集まっていました。開催時間は午前11時から午後6時半まで。「メッセ」の名とおり、見本市のような形でそれぞれのジャズミュージシャンの演奏を比べながら鑑賞できるスタイルで、1日を通して楽しめるイベントとなっていました。
- ◆ 初めてジャズの生演奏を聴いたので、その迫りに圧倒されたとともに、演奏中も奏者がアイコンタクトをとりながらメロディーを追加したり、セッションをしたりという自由な雰囲気にとっても驚きました。ソロを披露する度に、会場からは口笛や拍手が飛びかい、観客との距離も比較的近いせいか、会場が一体となってジャズを楽しむ雰囲気にあふれており、とても素敵な「メッセ」となりました。



迫力ある演奏に会場が一体となりました

団体名 伊保庄童謡・ハンドベルの会 (柳井市)

| | | |
|--------|-----------|---|
| 代表者名 | 村瀬 久美子 | 団体の目的 ・ 童謡やハンドベルを通して会員相互の健康と親睦を図るとともに、地域での行事参加や小学校、保育園、施設等への訪問をとおして人との絆を深め、日々の生活を豊かにする |
| 構成員数 | 30人 | |
| 設立 | 1989年5月 | |
| 問い合わせ先 | 山口きらめき財団へ | |

事業名 合唱・ハンドベル演奏を通じて地域に貢献

事業の目的

- 地域での行事参加や小学校、保育園、施設等への訪問を行い、皆で歌ったり体を動かしたり等の楽しみを提供する

事業の内容

- 市内各所に訪問し演奏会を行い交流を図った

| | 訪問先 | 開催日 |
|-----|--|---|
| (1) | いきいきサロンへの訪問 ①いきいきサロンあさひ会 ②いきいきサロンからす島 ③いちごの会 ④ふれあいサロンおおの ⑤いきいきサロン「ガゼボの会」 ⑥室積サロン | ①4月10日(日) ②4月27日(水) ③6月30日(木) ④12月16日(金) ⑤12月21日(水) ⑥1月21日(土) |
| (2) | 大歳神社跡地お披露目会 | 10月10日(月・祝) |
| (3) | 市民活動10周年フェスタへの参加 | 10月29日(土)やないフラワーランド |
| (4) | 学校への訪問 | 2月14日(火)柳井市立小田小学校 |

事業の成果

- 子どもたちには音楽の楽しさと魅力を、高齢者には楽しさと生きがいを感じてもらえることができた。訪れた先での絆もできた
- 助成金でグロッケンやタンバリンと言った楽器を揃えることができ、合唱やハンドベルの演奏に幅ができて華やかになった。これからも施設の訪問や小学生とのふれあい交流、地域への行事への参加を継続し、地域の皆さんとの繋がりや絆を強めていきたい

活動の写真



小学校へのふれあい交流訪問



施設や地域のイベントへ訪問し演奏

団体名 ESDうべ推進協議会 (宇部市)

| | | |
|--------|---|---|
| 代表者名 | 浮田 正夫 | 団体の目的 ・「宇部方式」の伝統を活かして、持続可能な発展のための教育(ESD)に係わる地域教育力を充実させ、「生きる力」を持った将来世代を育成する |
| 構成員数 | 20人 | |
| 設立 | 2018年4月 | |
| 問い合わせ先 | https://www.ubekankyo.com/ (こちらから検索) | |

事業名 SDGs/ESD実践型能力開発プログラムのデザイン

事業の目的

- 地球規模の問題を解決するための開発目標である「SDGs17目標」について、それを達成するための人材育成として、高校生向けのSDGs/ESD実践型能力開発プログラムを開発する

事業の内容

- 宇部工業高校と連携し、生徒へ下記のESD学習プログラムを提供(9月~11月の3か月間)

| | |
|---|---|
| ① | SDGsについて理解を深めるための説明 |
| ② | 自らの目標を設定し、達成するための行動規範を策定 |
| ③ | 「MY行動宣言カード」を作成 |
| ④ | 協働して農作業を行うことでESDに必要な7つの能力(批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する力、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度)を実践を通して身に着ける |
| ⑤ | グループ討議により身近にある「持続不可能なもの」の原因、対策等を検討する |
| ⑥ | 討論結果の発表 |

事業の成果

- 高校生向けのSDGs・ESD学習プログラムを構築でき、宇部市内の約100人の高校生が本プログラムに基づく研修を受け成長できた
- 多くの高等学校にこの研修プログラムを採用していただけるよう、実践を繰り返し、改善し、有効性を高めていきたい

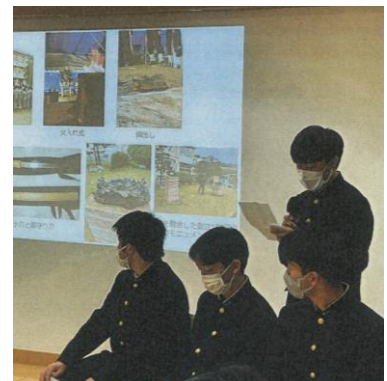
活動の写真



農作業の中でESD能力を身に着ける



討論を通して「持続不可能なもの」を「持続可能」に



団体名 東岐波里海再生の会 (宇部市)

| | | |
|--------|-----------------------------|--|
| 代表者名 | 寿恵村 泰生 | 団体の目的 ・ 宇部市東岐波地域の休耕地を活用し、地域の活性化を図るため地元の住民や中学生と連携しオリーブの栽培を行う |
| 構成員数 | 13人 | |
| 設立 | 2000年4月 | |
| 問い合わせ先 | y.suemura@dream.bbexcite.jp | |

事業名 東岐波をオリーブの郷へ

事業の目的

- 休耕地の緑化や地域活性化をオリーブによって推進する

事業の内容

- オリーブの植生地の整備
除草～雑草の生える時期には毎週実施(4～9月の間)
虫の駆除～オリーブの木は虫が好むため、年間を通して虫を駆除する(根本の樹皮に「ぞう虫」が入り込み木を枯らすため対策が必要)
剪定～木の成長が早く、枝が茂ると日光が遠くなり実の付きが悪くなるため実施
- 地域おこしにつながる加工品づくり
剪定した木の葉から「オリーブ茶」を製作
中学生と実を収穫し、油絞りをを行いオリーブ油を作成(10月15日/場所:JA東岐波)
収穫した実は渋抜きをし、新漬けに加工し販売する予定

事業の成果

- 毎月2～3回集まり、除草や害虫の駆除等大変だが、収穫したオリーブの加工品が地域のふるさと祭りでも売り切れるほど人気で、活動が地元で定着していきたく感じ会員も今後のやる気がでてきた
- 会員も高齢化し、若い元気な人の支援が必要となってきた。地元の中学生と協同して取り組むことができているので今後も継続していきたい

活動の写真



オリーブの収穫



約80本が植栽されているオリーブ畑



中学生の油絞り体験

団体名 屋代島さとうみネットワーク (周防大島町)

| | | |
|--------|-------------------------|--|
| 代表者名 | 田中 貞徳 | 団体の目的 <ul style="list-style-type: none"> 周防大島町における豊かな海の維持・向上に貢献し、次世代に継承する 周辺海域の環境と地域文化を事業者が学校、行政等に対して啓発し、住民と一体となって里海の保全に努める |
| 構成員数 | 6人 | |
| 設立 | 2019年4月 | |
| 問い合わせ先 | ☎090-7507-2821 (事務局) | |

事業名 周防大島海洋環境啓発事業

事業の目的

- 昨今、無数のプラスチックごみ(特にカキ養殖に使用したプラスチックパイプ)が漂着して、せっかくの白い砂浜が見苦しい状況にある。海浜に接続する沿岸部も人の手が入らずに荒廃地が散見されるため、これらを手入れし、豊かで美しい海辺を取り戻す

事業の内容

- 巡回海洋環境&安全パネル展:プラスチック類の使用削減や海洋環境への影響について啓発
開催期間:5月28日~6月25日の内6日間/場所:道の駅、キャンプ場、釣りのイベント会場、マルシェ等
- 海岸清掃:観光客にもゴミ袋を渡して一緒に海岸清掃を実施
開催日:5月30日、7月9日、10月8日、12月17日/場所:真宮島、片添ヶ浜、小積海岸等
- こども海洋環境教室
開催日:10月8日/場所:真宮島海岸
内容:なぎさ水族館の飼育学芸員を講師に、海岸の生き物を指標としてこれらの有無を調査し、水質と豊かさを判定
- 周防大島環境クルーズ
開催日:7月28日/内容:大島商船高専の実習船を使用し、岩国市沖で浮遊ゴミの回収作業にあっている中国地方整備局の清掃船の活動状況を船上から見学し、漂着ゴミ等の状況を確認
- 「海の環境と私たちの暮らし意見交換会」の開催
開催日:1月7日/内容:プラスチック削減や生活面での改善について参加者で意見交換

事業の成果

- 海洋環境活動への地域の理解が深まり、当会の活動を内外に広く発信できた
- 町外の環境団体とも積極的に連携をとり、活動手法等を取り入れてイベントへの参加者を増加し理解者を増やしていきたい

活動現場レポート 日時:10月8日(土)14:00~/周防大島町真宮島
こども海洋環境教室~周防大島の海辺の生き物で環境を調べる

- ◆ この日は、3家族4人の子どもが参加。なぎさ水族館の飼育学芸員が、瀬戸内の海岸周辺の生物が掲載されている調査シートと、その調査結果を記載する記録シートを配布し、調査の仕方や留意点などを説明。準備された軍手、バケツ、網をそれぞれ手にして調査しました。
- ◆ 子どもたちは、干潮時にできた磯の潮だまりを中心にカキやフジツボ、ヒトデ等の生物を探し出しては採取。最終的には全部で約50種類の生物を採取しました。(調査後、生物は海へ放流)自分で採取することにより、生物についての知識を増やすとともに、海の環境について考え、学ぶことができたようです。親子で楽しみながら、大変有意義な教室となっていました。



子どもたちは夢中になって採取

団体名 特定非営利活動法人 ぼうぼうネット (防府市)

| | | |
|--------|-------------------------|---|
| 代表者名 | 山本 一夫 | 団体の目的 |
| 構成員数 | 25人 | <ul style="list-style-type: none"> 行政と住民・市民、学が協働による持続可能な防災活動や地域力の創出を支援することで、災害に強い地域づくり、地域安全のまちづくりに寄与する |
| 設 立 | 2009年10月 | |
| 問い合わせ先 | ☎090-2808-0113 (事務局) | |

事業名 防災勉強会

事業の目的

- 新型コロナ禍における災害時避難所での炊き出し方法を取得する
- 東日本大震災の記憶をなくさず、現地の方との交流を通して山口県から復興支援の一助とする

事業の内容

- 「あの災害を絶対にわすれてはいけない」交流会

| | | | | | |
|-----|---|------|---------------|-----|-----|
| 開催日 | 6月11日(土)15:00~ | 開催場所 | 防府市地域協働支援センター | 参加者 | 66人 |
| 内 容 | 福島県・山口県元気の絆づくり実行委員会と連携し、福島県復興支援イベントと位置づけて開催。福島県日本酒アドバイザーの鈴木賢二氏、福島県議会議員の長尾トモ子氏が風評払拭とイメージ回復への取組や、福島県の特産品の一つである日本酒について講話をされた | | | | |

- コロナ禍における災害時、避難所での炊き出し方法を習得する講習会

| | | | | | |
|------|--|------|---------------|-----|-----|
| 開催日時 | 1月8日(日)12:00~ | 開催場所 | 防府市地域協働支援センター | 参加者 | 15人 |
| 内 容 | ハイゼックス袋を使っての炊き出し(非常食)体験講習。コロナ禍であることから大鍋を使いつつも個別に調理する方法を実際にカレーライスやポトフを作りながら学んだ。 | | | | |

事業の成果

- コロナ禍により、当初計画していた小学校での災害図上訓練は開催できなかったが、参加された皆さんが楽しく交流しながら学び、防災に対する意識を高めることができた

活動現場レポート

日時：1月8日(日)12:00~/防府市地域協働支援センター
コロナ禍における災害時・避難所での炊き出し方法を習得する講習会

- ◆ この日は公募により集まった15人が災害用炊飯袋(ハイゼックス袋)を使った炊き出し方法(調理方法)を学びました。
- ◆ メニューはカレーとポトフ。材料を細かく切ってハイゼックス袋に入れ、そこに調味料と水を加えてお湯を沸かしたナベに投入し、約30分煮るという工程で出来上がります。
お米も洗った後、一合分袋に入れて分量の水を加えて30分ほどゆでることで出来上がり、全て袋の中で調理は完結。1人前ずつ出来上がるためいろいろな人の手を経ることなく調理ができ、万が一の災害時でも安全に食を被災者に届けることができるとのことでした。
- ◆ 参加者は一人分の調理を問題なくこなし、後片付けも袋を片付けるだけ(お皿については、紙皿にラップを敷けば水を使うことなく片付けられる)ということもあり感心しながら体験されていました。ちなみにゆでる時の水はお風呂の残り湯でも泥水でもかまわないということで水の節約にも繋がります。楽しみながら、実践的な炊き出し方法を学べる良い機会となりました。



簡単な方法であっという間に完成

団体名 チャイルドサポートwith (下関市)

| | | |
|--------|---------------------|---|
| 代表者名 | 谷 範子 | 団体の目的 |
| 構成員数 | 5人 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者への支援の強化をキーワードに、家庭のサポートをすることで子どもの健全育成を目指す 活動を通して、学校や幼稚園等の行き渋りや不登校の早期予防と軽減を図る |
| 設 立 | 2016年4月 | |
| 問い合わせ先 | os.with22@gmail.com | |

事業名 子ども支援団体への後方支援活動を通じて子どもの心と学ぶ力のサポート

事業の目的

- 様々な子ども支援の組織と連携しつつ、個々の事例に細やかに対応することにより、問題を早く見つけ解決する、または解決の糸口を見つけて親子共々安心して社会生活を営むための支援を行う

事業の内容

※コグトレとは・・・認知トレーニング(cognitive training)の略で、社会面、学習面、身体面からの3つのトレーニングで構成。認知機能が強化され、学力や生活全般の質の向上など、様々な効果が期待できる。

- 地域の子どもの支援団体や地域、学校への後方支援
生野あそぼう会、放課後ひろば山の田、月スタ山の田、kananowa、垢田てらこやにおいて、コグトレ(※)を使っの遊びや学習支援、地域食堂の見守り等を実施
- 支援者研修・保護者向け研修

| | | | |
|-----|---|------|-------|
| 開催日 | 2月19日(日)10:00～ | 開催場所 | 北部公民館 |
| 内 容 | CAP下関から講師を招き、子どもとの関係づくりについて研修 コグトレについての学習会、報告も実施 | | |

- 子ども対象イベント「春まちコグトレ運動会」の開催

| | 内 容 | 日時 | 場所 | 参加 |
|---|---------------|----------------|-----------|------------|
| ① | コグトレを活用した遊び体験 | 2月11日(土)10:00～ | 山の田小学校体育館 | 延べ 124人 |
| ② | | 2月12日(日)10:00～ | 生野小学校体育館 | |

事業の成果

- 大人の役割は子どもが一人で生きていける力をつけてあげることという思いを新たに、今後も多くの方に伝えていきたいと感じている。基礎作りはできたので、コグトレの認知度を高め普及していきたい

活動現場レポート

日時：2月11日(土)10:00～／山の田小学校体育館
春まちコグトレ運動会

- ◆ 今回のイベントは、小学校の児童を対象に、子どもの認知能力を育むメソッド「コグトレ」を活用した運動会で、2時間規模での本格的な実施は今回が初めてとなります。イベントには、募集した子どもとその親27人に加えて、ボランティアとして山の田中の生徒と高校生、大学生、教員等参加されていました。
- ◆ 最初に運動会の趣旨と実施方法について説明がなされた後、小さい子どもたちから順に計算ゲームやふうせんレース、ケンケンパ、バランスレース、フロアクライミング等の遊びに挑戦。
- ◆ 用意された遊びは、どれも「コグトレ」に有効なもので、子どもたちは頭と体を使いながら、楽しそうに遊びをこなしていました。
- ◆ 工夫を凝らした様々なメニューが準備されていたため、子どもたちは飽きることなく興味のある遊びに何度も取り組むなど、大変有益な運動会となっていました。



様々な遊びに取り組む子どもたち

団体名 一般社団法人 Sぷらす (宇部市)

| | | |
|--------|-------------------------|--|
| 代表者名 | 伊藤 雅浩 | 団体の目的 ・ 関わられた方が輝く(shining)、笑顔で(smile)、スタート(start)してほしいという思いで、青少年の自立への支援や体験の提供を行い、人とのふれあいの中で自己肯定感やQOLの向上を目指す |
| 構成員数 | 30人 | |
| 設立 | 2021年3月 | |
| 問い合わせ先 | ☎090-7505-5063 (事務局) | |

事業名 子ども食堂「笑顔のれすとらん」の開催・各種体験会の開催

事業の目的

- 青少年が就労体験、農作業体験・野外活動体験等の様々な体験・経験・出会いにより「自分らしさ」を発見し、社会に適応できるよう支援する

事業の内容

| | 内容 | 開催 | 場所 |
|---|---|------------|-------|
| ① | 笑顔のれすとらん(子ども食堂)の開催～体験会とも合わせて行うことにより社会参加のためのきっかけに繋がった | 月1回 | 山口市佐山 |
| ② | 少林寺拳法体験会～参加者の年齢や個性に合わせて全身をしっかりと動かす運動になり、健康増進にも繋がった | 5月～1月の間に6回 | 宇部市丸尾 |
| ③ | そば打ち体験会～4人1組としてそば打ちの見学と体験を行い参加者同士のゆるやかな交流を図った | 月1回 | 山口市佐山 |
| ④ | 子どもの居場所づくり「ふれいるーむ佐山」の開催～様々な遊びを用意し、子どもたちの自由な発想で遊べる場を提供 | 月1回 | 山口市佐山 |

- その他、農作物を育てたり養蜂を体験できる農作業体験会や、里山で自由に遊ぶ野外活動体験会、清掃作業や加工生産、造園・建築作業を体験する就労体験会も逐次開催

事業の成果

- コロナ禍により参加者の増加は難しかったが、工夫して対策しながら継続したことで参加者の就労意欲がわいたり、自信がついたりといった効果を感じた。また、参加者と繋がりが強くなったことで、スタッフの使命感が湧き、自己有用感を感じられるようになってきた
- 今後も地道に活動を行い、様々な年齢や状況の方を受け入れることができるように体制を整えたい

活動の写真



子ども食堂の様子



芋ほり体験



地域のみなさんと一緒にそば打ち体験

団体名 特定非営利活動法人 森と海の学校 (宇部市)

| | | |
|--------|---------------|--|
| 代表者名 | 岡村 精二 | 団体の目的 ・ 体験教育の実践や普及、国際交流や子育て支援に関する事業を実施することで、心豊かな冒険心あふれる青少年及び指導者を育成し、社会教育の推進と青少年の健全育成に寄与する |
| 構成員数 | 25人 | |
| 設 立 | 1984年4月 | |
| 問い合わせ先 | ☎0836-41-5435 | |

事業名 不登校児童等教育支援事業「命をまもる子ども匠の学校」

事業の目的

- 近年多発する自然災害に対応できるような「生活の基盤となる技術」や「生き抜く力」を体験活動を通して身に付ける

事業の内容

- 「命を守る子ども匠の学校」(全10回)講座を開催
教育委員会や公認心理士、自然体験活動指導者、大工の匠などと連携して「おもしろいが一番!」を合言葉に子どもたちの自主性を尊重しながら、6月～9月の4か月の間に10回の講座を開催
内容:「命を守るために大切なこと」「農家さんが教える野菜作り」「板前さんが教える包丁の研ぎ方と魚のさばき方」「子ども海洋冒険学校」「大工さんが教えるノコとカナヅチの使い方」「達人が教えるラーメンとチャーシュー、煮卵づくり」など
参加者:小学生を中心に延べ199人が受講

事業の成果

- 三密を避けるための対策(少人数での開催、消毒、検温、マスクなど)を行いながらの講座となったが、不登校の児童を持つ数名の保護者から「講座終了後、学校に通えるようになった」との報告をいただいた
- 「防災の知識」と「生活の基礎となる技術」を学ぶという活動の目的を十分に達成することができた
- 今後は指導者育成にも力を入れ、引き続き「キャンプ学校」等、子どもたちが様々なことを体験し成長できる場を提供していきたい

活動の写真



火起こしの体験



匠の技術を間近で見学

団体名 特定非営利活動法人 もりのこえん (山口市)

| | | |
|--------|---|--|
| 代表者名 | 井出崎 小百合 | 団体の目的 ・ 自然体験活動を主とした子育て支援に関する事業を実施し、子育てを支え合い、誰もが尊重され、生きる喜びを感じられる社会を目指す |
| 構成員数 | 27人 | |
| 設立 | 2017年10月 | |
| 問い合わせ先 | https://morinokoen7789.wixsite.com/morinokoen | |

事業名 里山環境保全活動

事業の目的

- 多くの人が里山の役割や自然環境保護に対する知識を持ち、考え、行動する大切さを知ることができるよう啓発する
- 地域との交流を深め、地域の人たちと協力し、地域の環境保全と美化に取組み、防犯・防災に努める
- 山口市上天花地域の自然や里山の暮らしを安全に楽しむ環境を作る

事業の内容

- 地域環境整備活動(毎月2回)・・・地域の清掃や道路の整備、土嚢づくり等を住民とともに実施
 - 地域交流活動(月1回程度)・・・梅もぎや梅シロップづくり、玉ねぎの収穫、身近な木や木の実で作るアレンジメント、紫陽花の植樹等、季節に合わせた自然の営みを体験できるイベントを企画実施
 - 里山保全活動(毎月1回)・・・竹林整備や草刈り等。
- 年間延べ500人が参加

事業の成果

- 地域清掃や環境整備により、「もりのこえん」周辺の耕作放棄地や錦鶏滝へ向かう登山道などが随分整えられ、登山客や観光客が安全に行き来できる環境となった
- 地域との交流が進み、お互いの困りごとを知ることができ、助け合いが自然と行える関係作りが進んだ
- 今後も活動を通して地域の様々な担い手が係わって一緒に取り組んでいけるような仕組みを作っていきたい

活動の写真



参加者の皆さんと一緒に調理体験



周辺道路や里山の環境整備

団体名 まんま会 (防府市)

| | | |
|--------|---|---|
| 代表者名 | 貞平 理恵 | 団体の目的 |
| 構成員数 | 27人 | <ul style="list-style-type: none"> 誰もが集える居場所づくりを行う 様々な子育てのイベント等を通じて一人一人のありのままのかけがいのなさや可能性、人とのつながりの大切さを多くの方に感じ取ってもらう |
| 設立 | 2011年1月 | |
| 問い合わせ先 | https://www.instagram.com/manma.r1111/ | |

**事業名 「銭湯」跡を居場所「まんまある」にしようプロジェクト
～子どもも大人も心が軽くなる居場所を目指して～**

事業の目的

- かつて多くの人が日々の疲れを癒したり交流の場であったりした「銭湯」の施設を、子どもや大人が集う現代版の「心を軽くする銭湯のような居場所」として蘇らせる
- 学校になじめない、心に悩みを抱えている子ども達やその保護者が気軽に話ができて、新しい視点や価値観によって楽になったりできる機会や力になれる居場所を作る

事業の内容

- 施設のリノベーション／6～12月／イベント形式でリノベーション作業を実施

| | | | |
|---|-----------------------------|------------|-----|
| ① | 「リノベーションのお話を聴こう」～先行団体からの経験談 | 5月8日(日) | 21人 |
| ② | 「大工の松田さんに壁こわしのコツを聴こう」 | 6月26日(日) | 31人 |
| ③ | 「まんまあるの天井をはがそう」 | 10月10日(月祝) | 16人 |
| ④ | 「まんまあるの壁をはがそう」 | 11月20日(日) | 23人 |

- リノベーションされた施設で、誰もが集えるようなイベントを実施

| | | | |
|---|-----------------------|----------|-----|
| ⑤ | 「銭湯あと～まんまあるで映画を観よう」 | 12月4日(日) | 33人 |
| ⑥ | 「銭湯あと～まんまあるでライブを楽しもう」 | 1月14日(土) | 25人 |
| ⑦ | 「銭湯あと～まんまあるで絵手紙をかこう」 | 2月18日(土) | 21人 |

事業の成果

- リノベーションは概ね当初の予定通り実施できた。イベントには多くの参加があり、居場所として交流の場、ご縁が繋がる場所としての機能が少しずつ果たせるようになってきた
- 今後も交流の場として多くの方に利用いただけるよう検討を重ねていきたい

活動現場レポート

日時：10月10日(月・祝) 13:00～／銭湯跡「まんまある」居場所づくりプロジェクト part3～銭湯あと「まんまある」の天井をはがそう～

- ◆ この日の参加者は約20人で中には高校生の姿も。4班に分かれて皆で声を掛け合いながら脱衣場の古い天井の板をはがして広くする作業を和気藹々で行われました。
- ◆ 天井から降ってくるホコリやゴミに時折悩まされましたが、楽しく順調に作業がすすみ、30分もすれば天井板は全てはがされ、ゴミとしてまとめられました。今回の作業で剥き出しとなってしまった梁をどうするか(切るのか残すのか)を今後、会で検討されていくとのこと。
- ◆ 施設にはかつての銭湯の面影もしっかり残っており、それを活かしながらどのような拠点ができるのか、今後がとても楽しみです。



銭湯の面影を残した素敵な交流拠点が完成



団体名 やないしらかべ『絆』ねっとわーく (柳井市)

| | | |
|--------|-------------------------|---|
| 代表者名 | 中本 瑞穂 | 団体の目的 |
| 構成員数 | 19人 | <ul style="list-style-type: none"> 柳井市・近郊地域の子どもたちを対象に、食事の提供、学習支援、体験教室などを行い、子どもの健やかな成長につながる居場所づくりを目指す 子どもの悩みや不安の解消に向け、他団体や行政等と連携する |
| 設立 | 2021年4月 | |
| 問い合わせ先 | 871.kizunanet@gmail.com | |

事業名 やないしらかべ子ども食堂【体験教室】

事業の目的

- 感染症対策をしっかりと行った安心できる場所で子どもの体験教室を行い、子どものエンパワーメント(能力向上)を支援する子ども食堂を目指し、子ども食堂を必要とする過程を継続的に支援する

事業の内容

- 子ども食堂及び体験教室の開催(食堂は毎週日曜日に開催、食事提供とともに体験教室を年間18回実施)
 内容:オリジナルの万華鏡づくり、ロボット製作体験、職場体験(美容のお仕事)、タブレットを使った計算能力向上の体験教室や写真撮影、画像編集体験、わくわくクッキング、キウイ狩り体験、小学生向けの魚のさばき方体験、アンガーマネージメント、ダーツ体験、十五夜味噌づくり、ナインタイトル 等
 参加者:年長さんから高校生まで、延べ163人。

事業の成果

- 子どもの脳の発達を色々な角度から刺激する体験を提供でき、考えて準備する時間の余裕がない親たちへ支援の一助とすることができた
- コロナ禍で行動制限が多い中、感染症対策をしっかりと行って実施する体験教室へ、働く親たちから感謝の声が届けられた。公的扶助を補完する状況についてはまだ実現途上の段階
- 子ども食堂での食の提供にとどまらず、これからの山口県を担う子どもたちに英語や資格、ICTの技能を身に付けてもらえるよう(またはそのきっかけになれるよう)これからも活動を継続していく予定

活動の写真



体験会に参加した親子



味噌づくりや魚のさばき方等、いろいろな体験を楽しむ子どもたち



団体名 有帆竹灯会 (山陽小野田市)

| | | |
|--------|----------------------------|--|
| 代表者名 | 坂野 啓治 | 団体の目的 |
| 構成員数 | 34人 | <ul style="list-style-type: none"> 豊富な竹資源を活用し、地区内外のイベントを竹あかりや竹細工などで盛り上げるとともに、独自イベントを計画実施し交流を深め、青少年の健全な育成と地域活性化、里山の自然環境の保全整備に努める |
| 設立 | 2017年5月 | |
| 問い合わせ先 | ☎0836-83-5378 (江汐公園管理棟) | |

事業名 物作り体験と交流による青少年健全育成事業

事業の目的

- 青少年が気軽に参加でき、年代を超えてともに物作りを体験する中で会話し、学び、考え、様々な想いを経験し、自分の成長に繋げること
- 青少年の健全育成の協力の輪を拓げるとともに、地域の活性化に繋げること

事業の内容

- 親子で物作り体験と交流／6月・9月・12月／有帆小学校の子どもたちとともに、竹カッポンや竹灯ろう、輪飾り等を作成
- 有帆地区でイベント開催／9月・12月／有帆運動広場や小学校運動場で、夏休み思い出作り「花火で遊ぼう有帆っ子」やふれあいセンターまつりにて餅つき、輪飾りづくり、門松づくりを実施
- 第6回「わくわく竹あかりin江汐」の開催

| | | | | | |
|------|--|------|------|-----|------|
| 開催日時 | 10月29日(土) 15:00~ | 開催場所 | 江汐公園 | 参加者 | 400人 |
| 内容 | 竹灯ろう作りや竹とうろうの飾りつけ、竹細工等の遊び体験、ステージイベント(和太鼓やバンド演奏、尺八演奏)、高所作業車からの竹あかり鑑賞等 | | | | |

- 機関紙「里の竹あかり」の発行／年2回(8月に13号、1月に14号)関係者等に配布

事業の成果

- 地域の色々な場で「物作り体験」を提供でき、多くの子どもたちに参加いただいた。参加は年々増えており、活動の継続により会の趣旨が多くの皆さんに伝わるようになってきたと考える。地域でも青少年健全育成の輪が年ごとに広がっており、今後もこの輪をさらに広げていくために活動を進めていく予定

活動現場レポート 日時：10月29日(土) 15:00~／江汐公園
わくわく竹あかりin江汐

- ◆ このイベントは今回で、6回目となり、会場の江汐公園では、15時から地元の子どもたちによる和太鼓やバンド演奏などのステージイベントのほか、竹とうろう絵付けなどの竹細工体験が行われました。
 - ◆ 17時からは「竹とうろう点火セレモニー」が始まり、坂野会長や来賓のみなさんからの発声により、参加者が一斉に竹とうろうへ点火を行いました。
 - ◆ 親子連れでの参加が多く見られ、自分で絵付けをした竹とうろうへ子どもたちがそれぞれ点火をし、家族で楽しんでいる様子でした。
 - ◆ 今回初めて、点火に併せて竜王太鼓が演奏され、静かな楽曲を披露し、雰囲気盛り上げていたほか、昨年度に引き続いて実施された高所作業車からの見学には、多くの参加者が列を作るなど、人気を集めていました。
- すっかり地域の恒例のイベントとして定着している様子が伺えました。



様々な角度から灯ろうの灯を楽しみました

団体名 やまぐち婚活カレッジ (周南市)

| | | |
|--------|-------------------------------|---|
| 代表者名 | 門脇 まゆみ | 団体の目的 |
| 構成員数 | 6人 | <ul style="list-style-type: none"> 未婚化、晩婚化を地域社会の問題として捉え、結婚を考えている県内の未婚男女の出会いと学びを創出する 婚活や妊活の支援や自分磨き支援等に取り組む団体や市民のネットワークづくりを推進する |
| 設立 | 2020年3月 | |
| 問い合わせ先 | ☎0834-41-2437 (CHACHADO 内) | |

事業名 やまぐち婚活カレッジ 動画で応援「5 minutes yamagutic婚活」

事業の目的

- 山口県の婚活人口を増やし、社会全体で婚活を応援する機運を高める
- 婚活中に起こる様々な悩みや不安によりそう動画の充実、シリーズ化を図り山口県にこだわった、山口らしいポジティブな婚活を応援する

事業の内容

- youtube動画「5minutes yamagutic婚活」を製作
 - 1話完結の約5分の動画
 - 1回ごとにテーマを定めて、その内容に絡めて県内の行ってみたい幸せを引き寄せるデート&パワースポットやイベント情報を発信
 - 12本の動画を製作(視聴数1500人)
 - 内容・・・「婚活宣言の勧め」「理想のタイプの探し方」「婚活アプリの活用」「婚活パーティーやイベントに参加する時の対応」「結婚相談所の活用方法」「男性側からのお悩み相談」「婚活が上手いくポイント」「会話や言葉の選び方」「婚活成功のための3つの『作る』」「婚活の婚活のスピードと目標」「婚活とお付き合いのポイント」等
- 周知のためのパンフレットを作成関係機関に送付(2500部)

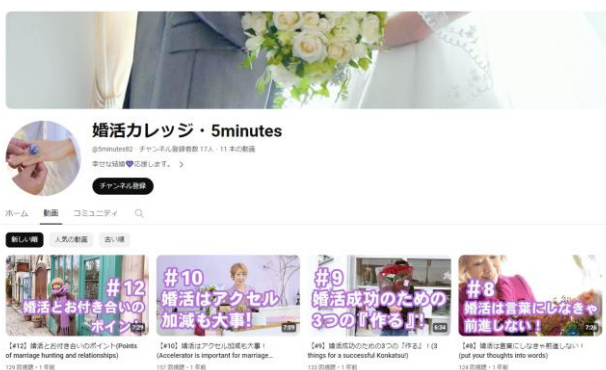


こちらから↑

事業の成果

- 婚活に係わるアドバイスを12本の動画にまとめることができた。今後、ポジティブな婚活に取り組んでいただけるためのツールとして広くこの動画を活用していただけるよう、取組を進めていきたい
- 動画とともに作成したパンフレットで広く周知を図り、独身男女が多く所属する団体や企業等で動画を視聴していただけるよう働きかけていく予定

活動の写真



作成された動画をyoutubeで配信



動画では山口県の名所等も紹介

団体名 Do a Front (山口市)

| | | |
|--------|---|--|
| 代表者名 | 藏田 章子 | 団体の目的 |
| 構成員数 | 13人 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 衰退する伝統芸能や空き家などの地域文化資源を、美術領域にて再活用する ・ 町の空洞化や高齢化等の様々な諸問題においても美術領域にて新たな提案を行い、その課題解決に寄与する |
| 設立 | 2012年4月 | |
| 問い合わせ先 | https://www.doafront.org/ | |

事業名 秋吉台を体感するアーティスト・イン・レジデンス事業

事業の目的

- 秋吉台の魅力を芸術家の新たな視点で考える機会をつくり、山口県内外の多くの人に興味を持っていただく

事業の内容

- 国内外で活躍する国内の芸術家 井阪 柊氏、森山泰地氏を招へいし、滞在制作事業を実施
制作期間…11月30日～12月18日(芸術村へは12月5～18日の間滞在)
制作物 …井阪 柊氏「事前確立手荷物検査|Prior Possibility Security Screenina」
森山 泰地氏「濡れることについて」

※こちらのサイトから確認できます→



- 成果展覧会…12月16日～18日 10:00～18:00
アーティストトーク…12月17日(土)14:00～15:30
オンライン成果報告会…3月15日(水)
滞在制作レポート、成果展覧会、作品動画、アーティストトークはwebサイトで公開

事業の成果

- フィールドリサーチから実際の作品の制作の過程の中で、秋吉台の知らなかった側面や魅力が見え、それを多くの方に伝えることができた
- アーティストトーク等はオンサイト、オンライン、ハイブリットで行ったことにより、国内外の関係者やアーティストに聞いていただくことができ、山口県や秋吉台国際芸術村に滞在したいという意見も届いている。今後の事業の発展の可能性も見えてきた

活動の写真



作品展示の様子



作品を囲んでアーティストトーク

団体名 シュルンマーリートインターナショナルコンサートの会 (山口市)

| | | |
|--------|---------------|---|
| 代表者名 | 棟久 佳代子 | 団体の目的 |
| 構成員数 | 30人 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術・文化の普及・向上とその高揚 ・ 国境を越えて我が国の芸術・文化の普及に努める ・ 国際交流による文化交流・芸術交流 ・ 次世代を担う若手音楽家の発掘と育成 |
| 設 立 | 1997年4月 | |
| 問い合わせ先 | ☎083-973-1616 | |

事業名 シュルンマーリート25周年記念事業 世界を結ぶ子どもたち～クリスマスの音をお届けします

事業の目的

- ヨーロッパの音楽文化の土壌で培われた技術と音楽力・芸術性を披露し、音楽の良さの再認識
- 音楽による青少年の育成と山口県の音楽文化の底上げ

事業の内容

- 「世界を結ぶ子どもたち～クリスマスの音をお届けします」コンサートを開催

| | | | | | |
|------|---|------|----------|-----|------|
| 開催日時 | 12月24日(土)14:00～ | 開催場所 | 秋吉台国際芸術村 | 参加者 | 120人 |
| 内 容 | 一般公募した子どもたちによるハンドベルや歌の演奏と海外や国内の音楽家による音楽演奏。プロの演奏家と子どもたちの共演も企画 出演：マルティン・マーサン(ヴァイオリン)ヒルダ・スコメダル(チェロ)シャハネ・ズラロバ(ピアノ)棟久木綿佳(ピアノ)村田 絢子(フルート)村田真一(ホルン)、浜田嘉生(歌) 曲：クリスマスにちなんだ歌や、カノン(パッヘルベル)、主よ、人の望みの喜びよ(バッハ)等 | | | | |

事業の成果

- 世界最高峰の演奏家と子どもたちが練習をする中で、どんどん上手になっていくことを感じた。海外の演奏家も子どもたち一人一人に声をかけてくれたり、音楽も丁寧に合わせ、時間をかけて子どもたちに向き合ってくれた。障がいを持っている子どもたちも自分ができる最大限の力が発揮できていた
- これをきっかけに海外から来山してくれる演奏家との絆を大切に、今後の音楽活動に活かしていきたい

活動現場レポート

日時：12月24日(土)14:00～/秋吉台国際芸術村
世界を結ぶ子ども達～クリスマスの音をお届けします コンサート

- ◆ クリスマスイブでもあるこの日は、クリスマスにちなんだ楽曲を中心に、子どもたちによる合唱や、ハンドベル、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ等の様々な楽器による演奏等が行われました。海外からのゲストもお招きされ、質の高い素晴らしい演奏が披露され息の合った美しい演奏を皆さんに届けられました。
- ◆ 全体的に、比較的短い曲を楽器や演奏者を変えながらどんどん進めていくプログラム構成となっており、90分間飽きることなくステージを楽しむことができ、観客の皆さんは大変満足されていた様子でした。
- ◆ 子どもたちとプロ奏者による共演のコーナーもあり、幼いうちからプロの高い技術に触れることのできる機会を作られていました。就学前の小さな子どもも2～3人参加されていましたが、皆な笑顔で歌を歌ったり、緊張しながらも堂々としたハンドベル演奏を披露されており、大変微笑ましく感じました。



クリスマスにふさわしい音楽の贈り物

発行 令和6年(2024年)5月



公益財団法人
山口きらめき財団

YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

〒753-0082 山口県山口市水の上町1番7号 水の上庁舎2階

TEL.083-929-3600 FAX.083-924-9096

E-mail:info@y-kirameki.or.jp <http://www.y-kirameki.or.jp>

